

地歴公民科学学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
日本史 A	1 年 1 組, 4 組 41 人 (男子 13 人, 女子 28 人)	1 年 1 組	高校日本史 A 新訂版 (実教出版)	北川 秀利

1 単元 第 3 章 大日本帝国の展開

2 単元について

この単元では、近代化を達成した日本が帝国主義化していく過程について理解させる。立憲制度が確立し産業革命に成功した日本が日清戦争、日露戦争を経て対外進出を積極的に行うようになった一連の流れを諸外国と関連づけて理解させる。また、国益の追求を軸にして当時の外交関係を俯瞰することで、現在の国際社会への理解を深める。

3 生徒の実態

1 年 1 組・4 組の生徒は、授業への取り組みや課題の提出状況は良好である。日本史への興味・関心が高い生徒もいるが、受動的な姿勢で授業に臨む生徒が多い。

4 指導に当たって

本校生徒は、歴史的事項の暗記や基本的事項の理解に偏重した傾向があり、歴史的事項の原因等の考察や資料・統計の分析などを苦手とする。生徒が思考・判断・表現する場面を授業に組み込み、それを促す「問い」を適切に設定する。そして、「問い」を協働的に追究したり解決したりする活動を通して、より深い思考や理解を促す授業を展開したい。

5 単元全体で育成したい力

日本近代の歴史をふまえ、近代史を事実に基づき把握し、歴史の構造とその変化を理解する。また、日本の歴史を世界の歴史と関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。

6 単元の指導計画

時	学習内容	考察に向かう主な問い
1	条約改正と立憲政友会の結成	条約改正が実現した背景は何か。
2	朝鮮政策と日清戦争	日本が朝鮮に進出した理由は何か。
3	日清戦争後の東アジア	日清戦争後に展開した東アジアの関係は何か。
4	日露戦争と朝鮮	日露戦争と朝鮮進出に関連する出来事

		の背景は何か
5	朝鮮の植民地化	朝鮮の植民地化の展開における特徴は何か。
6	資本主義と寄生地主制	財閥の形成と寄生地主制の成立の背景となった社会は何か。
7	社会問題の発生	産業革命が日本にもたらした負の側面は何か。
8	欧米文化と伝統文化の交錯	欧米文化と伝統文化が交錯する近代文化の特徴は何か。
9（本時）	歴史の展開 日米関係	日米関係の変化の特徴は何か。

7 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近代史に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	近代史における日本の歴史の展開から、世界史的視野をふまえて多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	近代史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近代史についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち、日本を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

8 本時の展開

目標

- (1) 日本とアメリカの外交関係について、意欲的に追究する。 【関心・意欲・態度】
- (2) 日本とアメリカの外交関係の変化について、世界史的な視野から考察し、適切に表現する。 【思考・判断・表現】
- (3) 日本とアメリカに関する資料を適切に読み取る。 【資料活用の技能】
- (4) 日本とアメリカの外交関係についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付ける。 【知識・理解】

展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
課題把握 10分	1 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 幕末から明治時代を通して、日米関係はどのように変化したのか。変化があるとすれば変わり目は何か。	日米関係の現状と将来予測について問うなどして、課題意識を高めた。	本時の学習内容について興味・関心を持つ。 【関心・意欲・態度】
課題追究 35分	2 グループ活動Ⅰ、個人活動Ⅰ 活動方法などについて確認するとともに、関連資料を基に各自予想を立てる。 3 グループ活動Ⅱ（エキスパート活動） 同じ年代を担当するグループに分かれ、資料を基にその年代の日米関係について考察する。 4 グループ活動Ⅲ 最初のグループに戻り、グループ活動Ⅱで分かった内容を説明し合い、それぞれの知識を組み合わせ、課題解決案を作る。	グループごとに役割分担などを確認させる。また、関連資料について説明し、各自予想を立てさせることで追究への意欲を高める。 適宜、机間指導を行い、資料についての補足説明などの支援を行う。 グループ活動Ⅱを通して各自が分かった内容を教え合うように適宜支援する。	関連資料等を参照しながら適切に判断している。 【思考・判断・表現】 担当する年代についての適切な判断をし、考察を深めている。 【思考・判断・表現】

課題追究 35分	5 課題解決案を発表する。	各班の発表を踏まえ、必要に応じてその根拠などについて説明させる。	グループ活動を踏まえて、話し合った内容を適切に発表している。 【思考・判断・表現】
	【課題解決案】 日米関係は、1854 年の日米和親条約締結後、概ね○（友好的な状態）が続いていたが、1900 年代に×（国益が対立する状態）に変化した。その変わり目は、1905 年のポーツマス条約締結後、日本が中国東北部の権益の独占を志向した時である。	生徒から出てきた言葉を紡ぐ形で課題解決案をまとめたい。	
課題解決 5分	【新たな課題】		外交政策のありかたについて意欲的に追究できたか。 【関心・意欲・態度】 日米関係の変化を通して現在の事象と関連づけて外交政策のあり方を記述できたか。 【思考・判断・表現】
	現在の事象と、どのような点が関連しているだろうか。	現在の国際社会と関連づけて考察、表現させる。	
	【新たな課題の課題解決案】 国際社会において、各国は国益を求めて行動する。外交関係もそれに応じて変化するものである。		
	6 個人活動Ⅱ 本時の振り返りを行う。	学習課題に再び向き合い、考えを再確認させる。	振り返りシートを意欲的に記入したか。 【関心・意欲・態度】